

## IV 地域資源グループの調査・研究活動とその成果

### IV-1 地域資源グループの調査研究の概要

佐無田 光

地域資源グループは、地域資源を活用する制度・組織に関する研究を課題とする。これは、6次産業化・雇用創出グループが進めてきた「地域資源を活用した地方農山村の知識経済化政策に関する研究」を引き継ぐが、農林水産資源だけでなく、文化的景観、伝統工芸、里山資源、地域ブランドなど、地域資源の範囲をより広くとって、その創造的活用を模索する地域レベルの事業的工夫、観光戦略、環境保全、社会的企業、地域産業政策等の展開を対象とする。

今年度は特に、地域資源として伝統工芸に焦点を当てて、中国の中山大学と連携する形で広州市において国際シンポジウム「アジアの伝統工芸の継承と革新」（広東省民間文芸家協会と共催）を開催した。神谷浩夫教授をコーディネーターとして、吉田国光准教授と丸谷耕太助教が本学から報告を行った。当シンポジウムは、日本学術振興会学術システム研究センターによる平成28年度学術研究動向調査等に関する研究委託「人文学の分野に関する学術研究動向および学術振興方策—西洋史学ならびに人文学的地域研究における新たな潮流と展開—」（代表者：野村眞理）の一環として実施されたものである。

これとは別に以前から継続している活動として、七尾市産業・地域活性化懇話会がある。地域政策研究センターは2012年度からこの政策と関わっており、本年度は第5分科会（「地域包括ケア」を支える医商工連携）と第3分科会（地域内経済循環と6次産業化）に協力している。第5分科会は計5回、第3分科会は計7回の会合を行った。2017年3月16日に今年度の全体会報告会が行われた。また、この活動は、2016年11月27日の地域活性化フォーラム2016 in 志賀町、および、2017年2月9日の美術工芸大学×金沢大学第10回交流シンポジウムでも報告された。

金沢で開催された第7回北陸地域政策研究フォーラムにおいては、大友信秀教授がフォーラムの第2分科会にて「地域資源の事業化に関する試み—金沢の伝統工芸産業を例に—」と題する報告を行った。当該分科会は、富山大学に転出した安嶋是晴講師がコーディネーターを務め、福井県立大学の木野龍太郎准教授、金沢大学の青木賢人准教授の報告とともに、地域資源の活用に関わる相互討論の分科会となった。

3月6日には、北陸先端科学技術大学院大学の敷田麻美教授と連携する形で共同シンポジウム「グローバル化に対峙する生物文化多様性—地域の自然・文化・経済から—」を開催した。キューバから来日された Peres Leon Victor Erenesto 教授、本センターのアドバイザーに新たに就任された佐々木雅幸同志社大学教授、生物学の権威、湯本貴和京都大学教授と、当センターからは佐無田が報告し、自然・文化・経済の「多様性」から地域の発展を考える討議がなされた（参加者45名）。

また、今年度新規メンバーとなった丸谷助教が、2016年11月30日の第3回公開研究会で「地域資源としての伝統工芸とその活用」と題する報告を行った。

なお、当研究グループとは直接関係しないが、市原あかね経済学経営学系教授が中心となって、「地域創造学類リスク・レジリエンス研究会」を3回にわたって外部有識者を招いて開催した。都市や農村の地域資源の活用と関連してくる内容であったため、付記しておく。

以上のように、地域資源グループに関連する活動は多岐にわたるが、地域資源グループとしては、まだまとまった形をとってはならず、これまでに行ってきた調査研究活動の展開・発信と、研究会・報告・シンポジウムを通じた相互の情報収集、情報共有を行う段階にとどまっている。今後は、外部資金を獲得してより体系的な研究体制を組んでいきたいと考えているが、当面来年度に関しては、丸谷助教を中心として、地域資源としての文化的景観に関する国際シンポジウムを企画予定である。

本年報においては、上記のうち、国際シンポジウム「アジアの伝統工芸の継承と革新」の内容と、七尾市産業・地域活性化懇話会の簡単な年間報告を掲載しておく。